



学校だより

令和5年5月31日

横浜市立菅田の丘小学校

校長 若山 京子

6月号

〔水無月 June〕

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
- 「徳」 自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
- 「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
- 「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
- 「関」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

スマホとの付き合い方

校長 若山 京子

薫風を感じさわやかだった日は数えるほどで、早くも熱中症の心配が募る5月でした。連休明けに感染症の扱いが変わり、学習活動のあり方も変化しています。この3年間、なかなか聞くことができなかつた子どもたちの元気な歌声が、教室から聞こえてくるととてもうれしく感じます。調理実習も人数を限ることなく行うことができました。



先日、「スマホの使いすぎが子どもたちの学力を壊している」と、ドキッとする見出しのニュースを目にしました。東北大学加齢医学研究所の調査によると、小中学生7万人を対象にスマホ等の使用と学力の関係を調べた結果「スマホを一日3時間以上使用する子どもたちは、勉強を頑張り睡眠時間を確保していたとしても、成績は平均未満になる」ということが判明したそうです。この調査におけるスマホ等とはインターネット接続ができる機器（スマホ、タブレット、音楽プレーヤー、ゲーム機など）のことを指しています。調査を行った東北大学の川島隆太教授は、脳科学の見地からも子どものイライラや抑うつなどの感情障害にスマホ依存が大きくかかわっていると、子どもたちの長時間のスマホ使用に警鐘を鳴らしています。

スマホの使用においてはSNSについての問題もあります。スマホを持っている子どもたちの多くがSNSを利用しています。SNSに関する子どもたちのトラブルは後を絶ちません。個人をつぶやきや考え、写真や動画が、指先のボタンひとつで全世界に発信されてしまうことの危険性について、あまり知らない子どもたちがほとんどです。発信先は鍵がかかっているから、限られたグループだけだから大丈夫と思っていても、見た人がそれを別のグループに発信すれば、たちまち拡散されてしまいます。つぶやきの中で名前を伏せていても、たどっていけば個人が特定される場合があります。根拠のない情報をSNSに安易にあげることで、事件や事故に巻き込まれる場合もあるのです。

インターネット接続ができる機器としては、学校では一人一台のタブレット端末が配られています。学習活動において、デジタル文房具として、また調べ学習等の資料としてタブレット端末を活用しています。先生からそれぞれのタブレット端末に送られた課題や端末内の学習アプリ等に、子どもたちは器用にタブレット端末を操作し取り組んでいます。けれども時々教室の後ろから見ていると、学習に関係のない画面を開いて見たり、友達の写真を勝手に撮っていたりしていることがあります。

前述の「スマホ等の使用時間と学力の関係」の調査結果で興味深かったのは、スマホ等を持っているが「全く使わない」という層と、スマホ等の使用が「1時間未満」の層では、後者の方が学力は高い結果になるということです。これは、誘惑の多い魅力的なスマホを自分の意志で自律的に使いこなし「1時間未満」に使用を抑えている、自己管理能力の高い子どもたちが一定数含まれているのではないかと分析されています。

スマホやタブレット端末に限らず、インターネットで世界中につながる便利な道具が子どもたちの周りにはあふれています。ネットにつながることの有用性と危険性をしっかり教え、依存に陥ることなく自律的に使えるよう、そして有効に活用できるよう子どもたちを支援していくことが大人の使命なのだと思います。スマホをすでにお子さんに持たせているというご家庭も、これからというご家庭も、お子さんとともに安全な使い方を確認し、注意深く見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

